

論文の和文要旨

論文題目	シエラレオネにおけるリベラルな紛争後の平和構築への挑戦 アフリカにおけるリベラルな平和構築の実現性の事例研究
氏名	Kallon, Emmanuel Vincent Nelson カロン エマニュエルビ ンセント ネルソン

紛争後のリベラルな平和構築はシエラレオネで果たして実現可能か？これが本論文で扱う主な問題である。本論文では、シエラレオネにおける紛争後の平和構築を検討するために、「民族・地域的新家産主義」の概念を導入する。本論文が論じるのは、アイデンティティ（民族的・地域的）が過剰に存在しているシエラレオネにおいて、紛争後のリベラルな平和構築を実施することは現実的ではないということである。この点を踏まえたうえで、特にシエラレオネのような特異な紛争後の社会において紛争後のリベラルな平和構築を実現するためには、政治空間における民族的多元主義、経済的不平等に対応した経済発展、疎外を超えた機会均等などが基本的な条件となると論じる。

しかし、本研究ではシエラレオネにおける「民族・地域的新家産主義」は民族的多元主義を崩壊させることで、行政において民族的な排他性をもたらすと論じている。また、シエラレオネにおける「地域民族主義・新家産主義」は、開発援助の不当な運用によって、経済的な低開発、不平等、貧困を大規模に生み出しているとする。さらに、シエラレオネにおける地域民族主義・新家産主義の現象は、政治的、社会的、国家的な場において、特に若者の間で不平等な機会を生み出すことで、疎外化、とりわけ若者における疎外化にもつながっていると主張する。

上述した 3 つの要因を明らかにすることで、本論文は、「民族・地域的新家産主義」という視点から次のことを詳らかにする。民族的社会的結束への挑戦が多元主義を阻害する民族の独自性の優勢の主張を先鋭化すること、開発援助の組織的式な誤った運営方法が経済的な低開発、不平等、貧困をもたらすこと、政党政治による若者の動員が若者の疎外と誤った起用による不平等な機会につながることを明らかにする。

本論文は、シエラレオネにおけるリベラルな平和構築を阻むこれらの重大な障害を、「民族・地域的新家産主義」の存在という観点から評価したものである。シエラレオネにおける「民族・地域的新家産主義」という現象の存在を考察することで、本論文は、シエラレオネでは紛争後のリベラルな平和構築を成功させることは現実的ではないと結論づけている。